

「スマート農業推進フォーラム 2024 in 北陸」  
企業等によるプレゼンテーション募集要領

農林水産省北陸農政局生産部環境・技術課

1. 要旨

北陸農政局では、「スマート農業推進フォーラム 2024 in 北陸」（以下、「フォーラム」という）を開催することとしました。

フォーラムにおいて、「スマート農業技術」及び「農業支援サービス」について、会場参加者及びオンライン参加者にプレゼンテーションを行う企業等を募集します。

＜フォーラムの開催日時、開催方法＞

開催日時：令和 6 年 12 月 20 日（金）

開催方法：会場（金沢市文化ホール（金沢市高岡町 15-1））及びオンラインの同時開催

【詳細につきましては北陸農政局ホームページを参照ください】

2. 募集する者及び募集数

(1) スマート農業技術のプレゼンテーションを行う者：3 者程度

(2) 農業支援サービスのプレゼンテーションを行う者：2 者程度

（(1)、(2)を合せて 5 者程度を予定）

3. プレゼンテーションの種類及び内容（例）

(1) スマート農業技術

・自社が製造又は販売するスマート農業機械（装置、機器、システムを含む）を導入、活用することで、「生産方式革新実施計画※」の作成が可能になるとともに、一層、スマート農業の取組が推進されることを解説する。

・自社が製造又は提供する施設園芸に係るスマート農業技術（複合環境制御装置等）を導入、活用することで、「生産方式革新実施計画※」の作成が可能になるとともに、一層、スマート農業の取組が推進されることを解説する。

(2) 農業支援サービス

・自社が行うスマート農業技術に必要な情報（リモートセンシングによる作物生育情報等）等の分析・提供サービスの活用を通じて「生産方式革新実施計画※」の作成が可能になることを紹介し、その効果を解説する。

・自社が行う農業支援サービス（農作業の代行、農業機械のレンタル、人材派遣等）を通じて「生産方式革新実施計画※」の作成が可能になることを紹介し、その効果を解説する。

※「生産方式革新実施計画」は、スマート農業技術活用促進法第 7 条に基づき、農業者等が作成する、「スマート農業技術の活用及びこれと併せて行う農産物の新たな生産の方式の導入に関する計画」をいう。

4. プレゼンテーションの方法

(1) 会場投影及び Web 会議システムを利用しプレゼンテーションを行う。

(2) プレゼンテーション用の資料又は動画を作成し、これを用いて説明を行う。

(3) プレゼンテーションの時間は、説明 10 分、質疑応答 5 分の計 15 分とする。

5. 申し込みの期限

令和 6 年 11 月 15 日（金）

6. 申し込み方法

北陸農政局HPの入力フォームからの申し込み願います。

<https://forms.office.com/r/ZUiPQdXzc9>

7. プレゼンテーション実施者の決定

11 月 22 日（金）までにプレゼンテーション実施者を決定し連絡します。

応募者の数が募集数を超えた場合等は、応募者のなかから、波及効果等の観点を検討し選考することとします。

8. その他の事項

(1) プレゼンテーションに使用する資料の提出

プレゼンテーションに使用する資料は、会場参加者及びオンライン参加者に配布いたしますので、令和 6 年 12 月 13 日（金）までにファイルでご提出ください。

(2) プレゼンテーションのホームページへの掲載・公開

フォーラム当日のプレゼンテーションは、会議終了後、動画に編集し、北陸農政局のホームページに掲載・公開する予定ですのでご承諾ください。

また、(1)で提出いただくプレゼンテーションに使用する資料も同様に北陸農政局のホームページに掲載する予定ですので、併せてご承諾ください。

(3) アンケートご協力へのお願い

今後のスマート農業推進フォーラム開催等における参考とさせていただくため、フォーラム終了後にプレゼンテーション実施者向けアンケートを送付させていただきますので、協力願います。

9. 担当者連絡先

農林水産省北陸農政局生産部環境・技術課 紺谷、野口

T E L : 076-232-4893(直通)

E mail : smart-hokuriku@maff. go. jp

# 生産方式革新実施計画の例示（農業用ドローン）

こちらの列が貴社における「**スマート農業技術**」となります

スマート農業技術の例



新たな生産方式の例



生産方式革新の実施  
（**生産方式活動計画**  
に記載される内容）

農業用ドローン + 直播栽培体系への転換	農業用ドローン + 栽培体系の統一	農業用ドローン + 作期の異なる品種の導入	生育状況診断 + 農業用ドローンで適期防除	センシング用ドローン + 栽培にデータを活用												
																
農業用ドローンを直播に活用	農業用ドローンを活用	農業用ドローンを活用	衛星画像等から生育状況を診断するサービスの活用	センシング用ドローンを活用												
																
		<table border="1" data-bbox="1147 791 1425 1006"> <thead> <tr> <th></th> <th>7月</th> <th>8月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>品種A</td> <td>防除</td> <td></td> </tr> <tr> <td>品種B</td> <td></td> <td>防除</td> </tr> <tr> <td>品種C</td> <td></td> <td>防除</td> </tr> </tbody> </table>		7月	8月	品種A	防除		品種B		防除	品種C		防除		
	7月	8月														
品種A	防除															
品種B		防除														
品種C		防除														
(直播による苗立ちの様子)				(データに基づいた可変施肥を実施)												
農業用ドローンの活用と併せ、直播適性の高い品種の導入や水管理や肥培管理など直播に適した栽培体系に生産方式を変更することで省力化効果を発揮	産地内で話し合いを行い、栽培体系を統一し隣接する農地一体でドローン防除に取り組むことにより、作業効率を向上	広域においてサービスを提供するサービス事業者と連携し、適期に作業委託をするため、作期の異なる品種の導入により、作期を分散し、サービス事業者が使用する農業用ドローンの稼働率を向上	生育状況診断により得られたデータを産地で共有し、防除計画の検討会を経て、農業用ドローンを活用した農薬散布の適正化を実施することで、品質・収量の向上を実現	センシング用ドローンから得られたデータを産地で共有し、栽培方法の比較・分析等を通じて、次期の栽培方法を変更することで、品質・収量の向上を図る												

# 生産方式革新実施計画の例示（水稻）

こちらの列が貴社における「**スマート農業技術**」となります

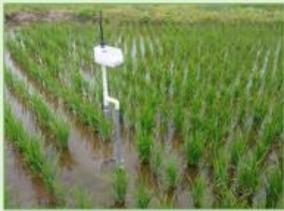
スマート農業技術の例



新たな生産方式の例



生産方式革新の実施  
（**生産方式活動計画**  
に記載される内容）

リモコン草刈機 + 斜面の緩傾斜化	可変施肥田植機 + 作期の異なる品種の導入	食味計付収量コンバイン + データを活用した可変施肥	水管理システム + ほ場の均平化	水田抑草ロボット + 水管理環境の整備（有機）																
 <p>リモコン草刈機を活用</p>	 <p>可変施肥田植機を活用</p>	 <p>食味計付収量コンバインを活用</p>	 <p>水管理システムを活用</p>	 <p>水田抑草ロボットを活用</p>																
 <p>（緩傾斜化された斜面）</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>3月</th> <th>4月</th> <th>5月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>品種A</td> <td>播種</td> <td>移植</td> <td></td> </tr> <tr> <td>品種B</td> <td></td> <td>播種</td> <td>移植</td> </tr> <tr> <td>品種C</td> <td></td> <td></td> <td>播種 移植</td> </tr> </tbody> </table>		3月	4月	5月	品種A	播種	移植		品種B		播種	移植	品種C			播種 移植	 <p>（データに基づいた可変施肥を実施）</p>		
	3月	4月	5月																	
品種A	播種	移植																		
品種B		播種	移植																	
品種C			播種 移植																	
<p>基盤整備と併せて急傾斜だった畦畔を緩やかな傾斜にすることで、リモコン草刈機が動作するための環境を整備</p>	<p>作期の異なる品種の導入により、作期を分散し、可変施肥田植機の稼働率を向上</p>	<p>食味計付収量コンバインで得られたデータを産地で共有し、翌年の基肥に向けた検討会を経て、より最適な可変施肥を実施</p>	<p>ほ場表面の凹凸を解消し、均平整地化することで、正確に水の管理ができる環境を整備</p>	<p>適切な水管理が可能な環境を整えることで、有機水稻のほ場で水田抑草ロボットが動作するための環境を整備</p>																

# 生産方式革新実施計画の例示（土地利用作物・露地野菜等）

こちらの列が貴社における「**スマート農業技術**」となります

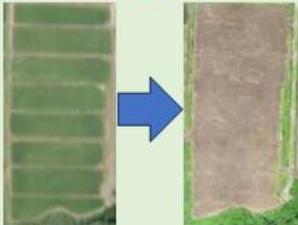
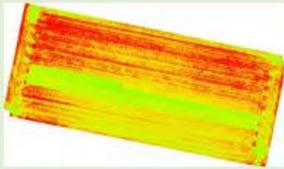
スマート農業技術の例



新たな生産方式の例



生産方式革新の実施  
（**生産方式活動計画**に記載される内容）

ロボットトラクタ + ターン農道の整備	営農管理システム + システム連携農機の導入	農薬散布ロボット + ほ場の合筆	自動収穫機 + 生育の均一化	自動収穫機 + 新たな出荷方法の導入
 <p>ロボットトラクタを活用</p>	 <p>営農管理システムを活用</p>	 <p>農薬散布ロボットを活用</p>	 <p>自動収穫機を活用</p>	 <p>自動収穫機を活用</p>
+	+	+	+	+
 <p>登坂部</p>	 <p>（システム連携農機の導入）</p>	 <p>出典： 合筆前圃場は国土地理院空中写真</p>	 <p>（ほ場内の生育ムラを分析）</p>	
<p>ターン農道を整備することで 繰り返し等が不要となり、ロ ボットトラクタの作業効率を 向上</p>	<p>営農管理システムと連携す る農機の導入による作業 記録の自動化を実施</p>	<p>複数の小区画ほ場を1つに まとめ（合筆）、農薬散 布ロボットの作業効率を向 上</p>	<p>生育を均一化する栽培方 法を導入することで一斉収 穫による歩留まりを向上</p>	<p>段ボール箱詰め出荷の方 法から、鉄コンテナを利用し て大ロット出荷する方式へ の転換</p>

# 生産方式革新実施計画の例示（施設園芸）

こちらの列が貴社における「**スマート農業技術**」となります

スマート農業技術の例



新たな生産方式の例



生産方式革新の実施  
（**生産方式活動計画**  
に記載される内容）

環境制御システム + 高軒高ハウスの導入	環境制御システム + 収穫期間拡大技術の導入	環境モニタリングシステム + 栽培にデータを活用	収穫ロボット + ハウス内部環境の整備	収穫ロボット + 栽培方法の変更
				
環境制御システムを活用	環境制御システムを活用	環境モニタリングシステムを活用	収穫ロボットを活用	収穫ロボットを活用
				
				
遮光カーテンや細霧冷房装置等の環境制御装置を装備している高軒高ハウスを導入することで、管理作業の効率化により管理コストを削減	環境制御システムによってハウス内環境を高度に管理することと併せて、今まで出荷できなかった時期も含めて収穫期間を拡大する栽培方法を導入し、収量増や高単価販売を実現	環境モニタリングシステムから得られたデータを産地で共有し、栽培方法の比較・分析等を通じて、次期の栽培方法を変更することで、秀品率の向上を図る	農業用ハウスの床面のコンクリート化等により、ハウス内を整地するとともに、通路幅を最適化することで、収穫ロボットの走行を容易に	立茎数を減らすなど栽培方法を変えることで、収穫ロボットが収穫対象を容易に認識・アクセス可能に

# 生産方式革新実施計画の例示（果樹）

こちらの列が貴社における「**スマート農業技術**」となります

スマート農業技術の例



新たな生産方式の例



生産方式革新の実施  
（**生産方式活動計画**に記載される内容）

無人運搬ロボット + 省力樹形の導入	ロボット草刈機 + 侵入防止柵の設置	環境モニタリング + 栽培にデータを活用	スマート選果システム + 栽培にデータを活用	電動アシストスーツ + 作期の異なる品種の導入																
 無人運搬ロボットを活用	 ロボット草刈機を活用	 環境モニタリングを活用	 スマート選果システムを活用	 電動アシストスーツを活用																
<b>+</b>	<b>+</b>	<b>+</b>	<b>+</b>	<b>+</b>																
				<table border="1" data-bbox="1763 801 2051 1039"> <thead> <tr> <th></th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th>品種A</th> <td></td> <td>収穫</td> <td></td> </tr> <tr> <th>品種B</th> <td></td> <td></td> <td>収穫</td> </tr> <tr> <th>品種C</th> <td></td> <td></td> <td>収穫</td> </tr> </tbody> </table>		7月	8月	9月	品種A		収穫		品種B			収穫	品種C			収穫
	7月	8月	9月																	
品種A		収穫																		
品種B			収穫																	
品種C			収穫																	
<p>小さな樹を密植して、直線的に配置（省力樹形）することにより、機械作業が容易に</p>	<p>勾配変化点及び凹部で走行停止することや走行範囲を逸脱することのないよう侵入防止柵の設置を行い、ロボット草刈機の円滑な作業環境を整備</p>	<p>環境モニタリングから得られたデータを産地で共有し、栽培方法の検討会等を通じて、最適な栽培方法を行うことで、秀品率の向上を図る</p>	<p>スマート選果システムから得られたデータを産地で共有し、栽培方法の比較・分析等を通じて、次期の栽培方法を変更することで、秀品率の向上を図る</p>	<p>作期の異なる品種を導入し、電動アシストスーツの稼働率を向上</p>																

# 生産方式革新実施計画の例示（畜産）

こちらの列が貴社における「**スマート農業技術**」となります

スマート農業技術の例



新たな生産方式の例



生産方式革新の実施  
（**生産方式活動計画**  
に記載される内容）

搾乳ロボット + フリーストール式畜舎の導入	搾乳ロボット + 飼育管理にデータを活用	搾乳ユニット自動搬送装置 + 通路幅の確保	行動監視装置 + 畜舎設備の改築	エサ寄せロボット + 走行通路の整備
				
搾乳ロボットを活用	搾乳ロボットを活用	搾乳ユニット自動搬送装置を活用	行動監視装置を活用	エサ寄せロボットを活用
				
つなぎ飼いから、フリーストール式畜舎を整備（搾乳ロボットに適した飼養方法）	搾乳ロボットから得られた乳量等のデータを、データ分析を行うサービス事業者に提供し、分析結果のフィードバックをもらい、最適な飼育管理を実現	畜舎内を整備し、搾乳ユニット自動搬送装置がレールを走行するために必要な通路幅を確保	付帯設備（柱等）の移動・除去等に伴う改築により、カメラの視認性を上げ、牛の行動変化に基づく発情発見や疾病・事故を予測する行動監視装置の精度を向上	走行通路の段差や溝を解消することで、エサ寄せロボットが動作するための環境を整備